



、水面が波立つほど北風が強く吹いていました。空気は澄んで猿投山がきれいに見えました。毎年やってくるカンムリカイツブリは11月には数羽だけでしたが、この日は200羽を超える大群になっていました。南の岸からはカモ類はカルガモとホシハジロを確認したのみです。オオバンも数羽でした。

カンムリカイツブリの大群

全体の動きを見ていたら群れ全体は左の方に動いていき、突然ほとんどが水に潜り、今度は右に向きを変え、一部の鳥が右の方へ飛んでいきました。潜って魚を捕まえたのでしょうか。これだけ大きな池なので餌になる魚が十分いると思われます。



葉が落ちた木を見ていると左のように綿のような白いものが目につきました。これはイタヤカエデですが、サクラやマメガキ、コナラなどでも見られました。これは、チュウゴクアミガサハゴロモの産卵痕です。外来昆虫でいろいろな植物の汁を吸い、枝に産卵しています。



夏、チュウゴクアミガサハゴロモの雌が産卵した後で、おしりに白いロウ物質が付けています。幼虫も植物の汁を吸います。その排泄物からすす病が発生し、果樹に大きな被害をもたらすことがあります。2010年頃から広がり繁殖力が旺盛で在来種のアミガサハゴロモがあまり見られなくなっています。



カツブリ

何かをくわえて水面に出てきたところです。上の写真では魚のように見えますが、なかなか飲み込めないようでした。

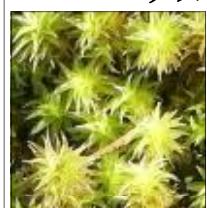


ムネアカハラビロカマキリの卵のう

2013年に豊田で確認されて以来分布が広がり、在来のハラビロカマキリが減ってきている。
←在来種の卵のう



エゾスナゴケ



土手が光を反射して緑色に見えました。春になると、濃い緑色になっていきます



コナラの紅葉と黄葉

赤くなった葉と黄色くなった葉がきれいでした。落葉した葉は



濃い薄いはあります
ですが茶色くなっています。



フジの実に開いた穴

マメ類の実を食害するマメシンクガの幼虫が出てきた穴です。幼虫は土の中で蛹化します。



ジョロウグモの卵のう

まだ親グモが見られました。寒くて動きが鈍くなっています。ジョロウグモはたくさんいましたが、卵のうの数はそれほどでもありません。



シキザクラ

マメザクラとエドヒガンの雑種で、春と秋～冬の二度咲きです。花は一重で、春の方が花が大きくなります。ジュウガツザクラは八重咲きです



シャシャンボの実

常緑のツツジ科の木です。実が黒紫色に熟すと白い粉を吹きます。花は夏に咲きました。



サルスベリの種

下のように実が割れると、薄い羽がついた種が出て、風に飛ばされていきます。

